

1 学校教育目標

自ら考え、主体的に学ぶ意欲と社会性豊かな「生きる力」を育み、自らの夢や目標の実現を目指し、自律心や規範意識を身に付けた人間性豊かな生徒を育成する。そして保護者・地域から信頼される学校を目指し、次の目標をかかげる。 ○自ら学ぶ人 ○豊かな心を持つ人 ○すこやかに生きる人

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<p><入谷南中に通わせてよかった></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の小学校との連携、学力の伸長と定着、豊かなところを育み、社会人としての基礎を作り上げることのできる学校 ○ 生徒の成長や変容を通して、保護者や地域に信頼される学校 ○ 保護者が安心して子供を任せられる学校
○児童・生徒像	<p><入谷南中生でよかった></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的意欲的に学習に取り組み、確かな学力・生きる力を身につけた生徒 ○ 基本的な生活習慣を身につけ、健康で規律正しい生活を送れる生徒 ○ 自己を生かし、何事にも希望を持って粘り強くやり抜く生徒（ポジティブ・シンキングを基本として） ○ いじめを許さず、互いの良さなどを認め合い励まし合うことができる心豊かな生徒
○教師像	<p><入谷南中に勤務できてよかった></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒に対する愛情に溢れ、温かく、厳しく生徒を指導・成長させることができる教師 ○ 常に自らを高めようとする意識を持ち、謙虚に努力を重ねる教師 ○ 理想の学校づくりに向けて協働して取り組むことに喜びを感じる教師（チーム入谷南中）

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

学校の現状：引き続きコロナ禍ではあるが、生徒の学校生活への意欲と期待は大きいと感じている。生徒の期待を受け、生徒の困り感に寄り添いきめ細やかな学習・生活指導を行う必要がある。運動会や体育実技発表会、文化祭（合唱コンクール）等の行事は行うことができたが、学力面では成績不振をコロナウイルスのせいにならず、各学年の発達段階に応じた目的意識をもって学校生活に望ませたい。

前年度の成果と課題

<成果>生徒は制約された学校生活ではあったが不平・不満を言うことなく落ち着いた環境で、感染対策を基本に学習面や生活面で努力できた。学習面では年間を通しての朝読書、読書月間、新聞活用週間の取組により読解力・表現力向上に役立った。サマースクールや定期考査前の補充教室、各種検定前の取り組みは行うことができています。教員の ICT 活用による授業改善への意識は高まり、各学級でクラス Room を開設し教材・課題を提供するなど、活用の場面が増えた。生活面に関しては生徒の自主性の向上とともに規律ある学校生活を維持することができた。また、年2回の QU を活用した教育相談、その結果を特別支援教育委員会、不登校生徒対応委員会に反映させた。

<課題>自学ノート（家庭学習）の提出率は良いが学習内容に課題を残した。サマースクールや補充教室は実施できたが、教員・生徒の ICT 活用による授業改善を基本とした学力の定着と向上は特に年次研受講者には必須である。SC、SSW、関係機関とも連携を深めながら不登校生徒を増やさないこと、何より各方面で生徒の成長・活躍・躍動する姿を保護者・地域にごらんに入れ、地域の中核の学校として信頼を深めていくことが今後も引き続いての課題であると考えている。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	心の教育の充実 キャリア教育や体験的な活動を通して自尊感情、自己肯定感の向上	○	○	○	○	○
3	小中連携・保護者や地域・外部機関との連携の深化 生徒の健全育成を目指した教育活動の充実	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
授業改善を推進し、学習コンテンツの実施やパワーアップタイム（補充教室）の充実を図り、区調査等の正答率・通過率を向上させる。		区調査通過率55% 到達度正答率60%		区調査通過率57.4% 到達度正答率54.7%		<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の結果は目標を上回ったが、年度末の結果は目標を下回った。来年度に向けて学力向上の取り組みを行う ・学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照 		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
改善	ICT活用及び足立スタンダードに準拠した授業改善	全教科 全学年	年間を通じて 都度	<ul style="list-style-type: none"> ・足立スタンダードの準拠した授業展開を全教科で行う。 ・ICTを活用し、生徒の興味・関心・意欲を高める授業展開を行う。 	教員アンケート 生徒アンケート	肯定的評価 85%以上	教員：85% 生徒：86% (授業がわかる)	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用率は向上 ・各教員の空き時間を利用して、他の先生方の授業を見る校内研修会の充実も図った。 	○
改善	朝読書及び読書月間の実施	全学年	朝読書は毎朝 年2回 一ヶ月間実施	朝読書は基本毎朝始業時から15分 読書月間は図書委員会の活動とリンク読解力の向上と、長文を読むことへの抵抗感を減らす。様々な図書に触れさせ読書の幅を広げる。	教員アンケート 利用人数 貸し出し冊数 貸出利用人数 (4～12月)	肯定的評価 85%以上 貸出冊数 5000冊以上	教員：85% 利用人数 3925人 貸出冊数 5098冊 貸出利用人数 2020人	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書は落ち着いた雰囲気です1校時の授業に入ることに役立っている。 ・現状に応じて、適切に実施されていた。 	○

継続	放課後補習教室 (定期考査前を含む)	全学年 補習対象 生徒 数学・英語 定期考査前は全教科	通年 週 2 日 程度 定期考査前 5 日程度	指導体制 学年教員 学習習慣の確立、定期考査 対策及び、基礎学力の定着 を目指し、教科や学年の課題 提出が不十分だった生徒や 希望者を対象に、勉強会を 実施する。数学はAIドリル 活用	教員アンケート 生徒アンケート	肯定的評価 85%以上	試験前補充 中間試験前・期末試験前 PU として5日間ずつ実施 放課後補習 生徒の状況に応じて適宜 実施 教員 65% 生徒 55%	・ 普段の放課後学習として、 授業への取り組み状況を確認し、 不十分な生徒は個別に対応する ことができた。 ・ 今後も工夫・改善が必要。	△
継続	学習コンテストを 生かした 取組	全学年 全生徒 国・数・英	国：年1 回 数：年1 回 英：年2 回	指導体制 教科担任 漢字・計算・英単語の3分野 でコンテストを実施。事前 学習、当日のテスト、事後の 補習という一定期間連続した 取組により、全生徒の基礎 力を向上させる。	教員アンケート コンテストの結果	肯定的評価 85%以上	教員：80% コンテストの結果(合格率) 計算：1年：63% 2年：52% 3年：73% 漢字：1年：72% 2年：61% 3年：84% スペリング： 1年：35% 2年：51% 3年：70%	・ コンテストでは、一生懸命 取り組めた生徒もいるが、 なかなか点数が上がらない、 または本番までに減速して しまい点数が下がってしまった 生徒がいた。	△
改善	サマースクール	全学年 希望者+ 選抜者	基本五 教科 7日間	区調査や定期考査の結果を 分析し、弱点を補うことを 目的とする。 学生ボランティアを活用 する	教員アンケート サマースクール結果	肯定的評価 85%以上	教員：90%	・ 生徒を厳選し、よりきめ細 かい指導を実施することが できた。 ・ 卒業生や教育実習生に声を かけ、学生ボランティアを 募り、全校体制で対応する ことができた。	○
継続	検定受検 の推進	全学年 希望生徒 国・数・英	国・年3 回 数・年3 回 英・年3 回	指導体制 教科担当教員 教科への興味を高め、学習 の成果を実感し達成感を 味わわせる。合格率を高め るため、検定前の補習(英 検では面接練習を含む)を 実施し、生徒の分かる喜び を育む	教員アンケート 各教科生徒合格率	肯定的評価 85%以上 合格率 70%以上	教員：85% 合格率 英検：62.5% 漢検：46.9% 数検：77.5%	・ 学校全体では、受験者も 多かったように感じる。 ・ 英検指導は充実している。 朝、夕に週2～3回の個別 指導が徹底しており、合格 率アップにつながっている。	△
改善	家庭学習 の定着	全生徒 全教科	年間を 通じて	家庭学習のやり方を全学年 教員で指導する (年度当初) 学習ノートの点検定着 Google クラス Room の活用	教員アンケート 生徒アンケート	肯定的評価 85%以上	教員：75% 生徒：59% 家庭学習を毎日やる	・ 曜日で教科を決め、プリン トを配付し、そのプリント をノートに貼り、取り組ま せた。 ・ 自学ノートの内容、提出状 況がよくない。課題の未提 出者が多い学年がある。	△

重点的な取組事項－2		生徒の豊かな心を育む：キャリア教育や体験的な活動を通しての自尊感情、自己肯定感の向上			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
<ul style="list-style-type: none"> 豊かな心の指標となる自己肯定感・自己有用感の向上。 生徒の学校生活満足度の向上。 情報モラル及び心の教育の質的向上。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の「学校生活」に関する全校生徒と教職員員の肯定的な評価を85%以上にする。 	教員：85% 生徒：92%	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感、自己有用感が高い生徒は少数と感ずることがある。 	○	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
<ul style="list-style-type: none"> 特別な教科「道徳」とQU実施、及び三者面談等を生かした教育相談の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「学校が楽しい」90%以上 教員アンケート肯定的評価80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 教科「道徳」の充実 QUの2回実施と分析 三者面談を含む教育相談の実施による心の育成 	教員：80% 生徒：92% 学校生活は楽しい	<ul style="list-style-type: none"> 教科「道徳」の充実を図るため、授業時数を確保し、各学年道徳担当の教員が中心となり、学年全体で対応することができた。 学年体制で道徳の授業を行っており、QUの結果を活用して生徒指導を行っているが十分ではないことがある。 	△
<ul style="list-style-type: none"> 各種スポーツ・文化的行事等への積極的な取り組み。(自尊感情・自己肯定感を高める実践) 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会・文化祭の生徒の満足度90%以上。 教員アンケート肯定的評価80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会・文化祭の内容充実。 各部活活動内容の充実。 各教科教員と学担の連携。 区内各種中学校連合大会への積極的な参加・取組・事前準備活動の充実。 	教員：95% 生徒：90%	<ul style="list-style-type: none"> 授業時数を確保しながら、運動会や文化祭など学校行事も積極的に取り組むことができた。 教えあいの活動ができたことで、充実した取り組みができた。 	◎
<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通したキャリア教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 教員アンケート肯定的評価80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 1年の職業講話、 2年の職場体験・上級学校訪問、 3年の進路選択により自己理解を深める。 	教員：95%	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験は実施できた。仕事という面の強いキャリア教育になってしまったので、今後は生き方にもっと深められるような指導をしていく必要があると感じた。 	◎
<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 教員アンケート・生徒アンケート肯定的評価80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル教室の実施 ファクトチェック講習会の実施 安全教室の実施 	教員：95% 生徒：91%	<ul style="list-style-type: none"> 情報に関する講演を通して、生徒は理解を深めており、ほとんどの生徒がルールやマナーを守ろうとしている。 	◎

重点的な取組事項－3		小中連携・保護者や地域・外部との連携の深化：生徒の健全育成を目指した教育活動の充実			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
<ul style="list-style-type: none"> ・連携推進を通じた児童・生徒の変容と落ち着いた学校づくり。 ・特色ある教育活動や生徒の成長を通して、地域・保護者の信頼を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員アンケート・小中連携の肯定的評価 90%以上 ・保護者アンケート肯定的評価 80%以上 	教員：90% 保護者：89.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には発表もあり、充実したものになったが、次回への課題も残った。 	○	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
<ul style="list-style-type: none"> ・教員同士の連携の推進、連携事業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「舎人スタンダード」の共通実践、「教員同士の連携」における教員アンケート肯定的な評価 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同研修会（年4回以上）を中心とした連携活動を通して、小・中の関連ある項目や発達段階を踏まえた教科指導や児童・生徒指導の取り組みを行う。 	教員：95%	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の先生方と連携を図ることができた。 ・来年度は、研究授業も良いが、生活指導や授業規律について9年間の統一を図れるとさらに良い。 	◎
<ul style="list-style-type: none"> ・教員と児童・生徒、生徒と児童との連携の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の肯定的な評価 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業支援等：3回以上 ・授業体験：1回以上 ・補充授業協力：夏休み他 ・部活動体験：1回以上 ・学校説明会：1回以上 	教員：95% ・授業支援等：3回実施 ・授業体験：1回実施 ・部活動体験：1回実施 ・学校説明会：1回実施	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事として授業体験、部活動体験、学校説明会は実施できた。 ・授業支援、補充授業協力は十分にできていなかったと感じた。 	◎
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域への情報提供と連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の肯定的な評価 90%以上 ・保護者の学校運営に対する肯定的評価 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校HPの適宜更新・学校だよりや配信メールを活用した情報提供を行う ・開かれた学校づくり委員会を中心とした外部人材の積極活用 	教員：90% 保護者：90.5% 各種外行事の情報提供：5回 （ブログページ活用） 開かれ委員会による3年生面接練習	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりや配信メールを活用し、学校全体の情報を常に提供することができている。 ・開かれ委員会の方々と協力をし1～2年生は花いっぱい運動、3年生は面接練習を行うことができた。 	○
<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の向上と強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の決まり、時間を守る生徒の意識向上 生徒アンケート 90% 教員アンケート 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活目標の設定、道徳の充実、教員の率先垂範により、規範意識の向上を図る ・生徒会を中心とした声かけ、呼びかけ 	教員：85% 生徒：92.8% インターネット使用ルール教室 ファクトチェック研修会 生活の決まりの見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が間に入る形で頭髪や持ち物などへの意識改革などを今後も絶えず行っていく必要があると感じた。 	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力向上アクションプラン

「成果」 年度末定着度確認テストにおいて、正答率は国語1年：69 2年：69 数学1年：47 2年：42 英語1年：52 2年：49

「課題」 1, 2年とも数学・英語の結果に課題が見られた。数学は基本計算のミス、英語は日本語から英語に直す部分に課題があった。

「対策」 各教科の授業で解説と振り返り・演習の実施。指導するターゲット層とできない部分を明確にし、放課後補充等を集中的に学校体制で行い苦手意識の払拭とつまらないミスの根絶を目指す。自信を持って新年度の区調査に臨めるよう備える。

課題解決の方向性 苦手意識を払拭させ自信をもって問題に取り組めるようにする。基礎的な計算問題や英語の基礎文は繰り返し解かせ・書かせ確実に正解できるようにしていく。

重点的な取組事項－2 生徒の豊かな心を育む

「成果」 学力向上の下支えとなる豊かな心を育む活動は、キャリア教育や様々な工夫された体験活動により生徒の心の成長が感じられた。

「課題」 幼さが残る生徒が少なからずいる。他者を尊敬する気持ちを醸成する必要がある。家庭を含めSTOPいじめ・情報モラルの向上に取り組むこと。

課題解決の方向性 生徒の活動の成果を保護者・地域に見えるようさらに発信し、理解と協力を得る。

小中連携において、小学校高学年の児童に対し、中学校の生活指導基準を示し、中学校入学後にギャップを感じさせないようにする。

重点的な取組事項－3 小中連携・保護者や地域・外部との連携の深化

「成果」 小中で互いに授業参観（講師を招聘しての研究授業）や区の施策をより良く理解するための合同研修を行い指導力向上と共通の課題発見・解決に努めた

「課題」 小中9年間を見据えた児童・生徒の育成計画（教科連携における小中共通の課題、小中での生活指導基準の共有）を策定すること。

課題解決の方向性 引き続き小・中で課題を共有し、連携して解決にあたる。特に小学校段階から中学校での生活を意識した学習や行事の取り組み、規範意識の醸成を図る。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

- ・日頃より本校の教育活動への御理解と支援に感謝すると同時に、特に家庭において家庭学習の支援（主に時間の確保と定着）を強くお願いしたい。
- ・運動会・文化祭等の行事だけでなく、学校公開週間や土曜授業の見学も積極的に来校するようお願いしたい。
- ・引き続き教職員一同「チーム入谷南中」として生徒の活動を支援し、卒業後は地域に戻り活躍できる生徒の育成に全力で取り組んでいく。

(3) その他（学校教育活動全般について）

- ・「見落とさない、見過ごさない、見放さない」をモットーに生徒に優しく温かく厳しく接する「チーム入谷南中」

<実施結果（教職員アンケート調査） 内容により生徒への生活アンケート結果も含む>

A：十分に達成できた B：だいたい達成できた C：あまり達成できていない D：要改善、達成できていない

- <達成度> ◎：十分に達成 … 実施結果にC、Dがない
○：おおむね達成 … 実施結果のC、Dが30%未満
△：達成せず … 実施結果のC、Dが30%以上50%未満
●：課題が残る … 実施結果のC、Dが50%以上

※ アンケートの数値とともに、内容（昨年度との比較、自己評価コメント等）により達成度は決定する。